

〔優秀賞〕

◇ 意識を変えて新しい未来へ ◇

常盤小学校 5年 稲田 朱莉

男女差別をなくしていこう。このような言葉を、新聞やニュースなどでよく見かけます。男性だから、女性だからという理由で、差別を受けている人が、世界中には、たくさんいるそうです。なぜ性別だけで判断され、きずつけられなくてはいけないのでしょうか。

わたしが特に気になっている問題は、家事についてです。結こんして夫婦になると、男性は外で仕事を行い、女性が多くの家事をしてはならないと考えられているようです。特に日本は、昔からそのように考える人が多いそうです。

わたしの両親は、農家の仕事をしています。毎日、とても早く起きて、畑に行き、野菜の世話や収穫をしています。朝食の時間になると、両親のどちらかが一度仕事を止めて、朝食を作ってくれます。父が作る日もあれば、母が作る日もあります。両親は、家事を二人で分たんし、協力して行っています。

もちろん、両親だけが家事を行っているではありません。家族の一員として、わたしや兄も手伝います。兄は、米とぎのたん当、わたしは、食器ふきのたん当です。両親の仕事がおそくまでかかることがあります。そんな日は、わたしと兄で協力して、夕食の準備をしています。あせをかいて仕事をしてくれた両親のために、おふろの準備もします。

このように、わたしの家では、家族みんなが家事を行うことで、助け合い、協力し合い生活しています。

家事の他にも、服そうについて気になって

いることがあります。それは、中学校や高校の制服についてです。以前の制服は、男性はズボン、女性はスカートをはくというのが当たり前でした。中には、スカートをはくことが苦痛で、学校に通うことができなくなってしまった生徒もいるそうです。しかし、今では、自分の好みに合ったものを選たくして身に付けることができるようになってきています。

わたしが来年の4月から通う、葛生義務教育学校でも、制服は、スカートかズボンか選たくできるそうです。だれもが安心して学校生活を送ることができるというのは、とても大切なことだと思います。

SDGsの17のゴールのうち、5つ目には「ジェンダー平等を実現しよう」とあります。これからも、世界中で、少しずつ男女の差別で苦しんでいる人が減っていけばいいと思います。そして、様々な取組も大切ですが、最も大切なのは、わたしたちの意識を変えていくことです。今まで、男性だから、女性だからと当たり前を決めつけたり、思いこんだりしていたことに対して、本当はちがうのかもしれないと立ち止まって考える必要があると思います。そして、わたしだから、あなただから、かがやける未来を、みんなで作っていきたいと思います。